

共に高めあう学習活動の研究

音楽科 坂口 匠

1. テーマ設定に当たって

ここ数年音楽科では「音楽的感受」について研究を深めてきた。

感受性という言葉があるが、これは「外界からの刺激を深く感じ取り、心に受けとめる能力。(三省堂大辞林 第二版)」のことで、「音楽的感受」とは文字通り音楽を聴く際に、音や音楽を刺激として感じ取り、その美しさや豊かさなどを感じ取る心の働きである。

音楽科の学習内容は表現と鑑賞の2領域に分けられるが、鑑賞によって得られた感受をどのように表現するか、また、表現するためにどのように感受するかというように、「音楽的感受」はこの2つの領域に大きく関っており、表現と鑑賞のスパイラルな取り組みが豊かな音楽的感受や表現を育てるものと考えられる。

今の中学生たちは、メディアの発達により、様々なジャンルの音楽がテレビやラジオ、CDやインターネットにあふれており自由に手に入れることができるため、いつでもどこでも簡単に音楽を聴くことができる環境の中に育ってきている。また、本校の生徒は、習い事としてピアノやヴァイオリンなどの楽器演奏に親しんでいる生徒が多く、多様な音楽的経験を重ねてきているが、多くの生徒は流行り廃りの激しいポピュラー音楽を好んで聴いていると思われる。学校の授業では良質のポピュラー音楽を含め様々な音楽の学習を通して、音楽のよさやかかわり方を学ばなくてはならない。丁度、発達期の生徒たちに様々な栄養素の摂取が必要なように、心の発達のために、偏った音楽だけを聴くのではなく、バランスよく様々な音楽と接する機会を持ち巾の広い豊かな音楽的な感受を育てなくてはならない。

また、生徒の様々な音楽的な経験は、家庭環境などによって個人差がとても大きく、そしてそこから形成される、音楽の個人的な趣味や嗜好は個性でもあり、尊重しなくてはならない部分であるが、感受の深まりの度合いも個人差が大きいと思われる。巾の広い豊かな音楽的な感受と同時にどこまで深く音楽を感じ取ることができるかという部分も、生徒の音楽的な成長のためには必要となってくる。

さて、楽器を弾く人なら誰でも経験することだが、コンサートを聴いて感動して自分もあのように弾きたいと楽譜を引っ張り出し弾いてみる、あるいは、テレビで歌手が歌うのを聴いて自分でもカラオケで歌ってみる、というように、音楽を表現しようという欲求は、追体験への欲求から始まると思われる。生徒たちが合唱曲を歌いたいと思うには、その曲がよい曲だと思うこと、そして、よい演奏で聴いて自分たちもあのように歌いたいと思うことではないだろうか。生徒たちの心の中にその曲のイメージがインプットされ、それを再現あるいは追体験しようというところから表現の第一歩が始まる。ここで大事なことは、生徒がその曲をどのように聞き取ったかという音楽的な感受の仕方である。同じ曲でも生徒一人ひとりの受け止め方は異なっており、そのため意欲や表現に差が出ると思われる。生徒それぞれがどのように受け止めどのように表現したいかを出し合うことにより、自分の受け止め方とどのように違うか、また、他の人の受け止め方に共感できるのか、自分の受け止め方に共感してもらえるかなど様々な感受が淘汰精選され、クラスの中でおおまかなまとまりができれば表現の方向性が定まることになる。

今年度の本校の研究主題は「共に学ぶ生徒の育成を目指して」であり、生徒同士が話し合いなどの関わりあう活動を通して問題解決にあたらうというものであり、音楽科では「共に高め合う学習活動の研究」と主題を定め、研究に取り組んだ。

2. 今年度の研究

(1) 題材名 合唱の喜び —合唱コンクールの取り組み—

3年課題曲「虹」 作詞・作曲 御徒町凧, 森山直太朗, 編曲 信長貴富

(2) 目標

- ① 歌詞の内容, 声部の役割, 構成要素の働き, 表現要素による曲想の変化に関心を持ち, 意欲的に表現活動をする態度を養う。
- ② 歌詞の内容, 声部の役割, 構成要素の働き, 表現要素による曲想の変化を感じ取り, 自分なりのイメージを持って合唱表現を工夫する。
- ③ 歌詞の内容, 声部の役割, 構成要素の働き, 表現要素による曲想の変化に合った, 自分なりのイメージを合唱表現できる技能を身につける。

(3) 研究対象

平成18年度3年生4クラス157名

(4) 題材設定について

題材設定当たっては「合唱の喜び —合唱コンクールの取り組み—」としたが, 年間を通して音楽科最大のイベントである合唱コンクールであるため, 生徒の関心や意欲も高く, みんなで作り上げる喜びや達成感・成就感の得られるものとして最適であると考えた。また, 合唱教材であるため学習活動の中で共に高め合う場面を設定することが可能である。

(5) 教材の選曲とその理由

合唱コンクールでの3年生の課題曲は, これまで「大地讃頌」を取り上げてきた。合唱曲の定番とも言うべき曲で, 技術的にも内容的にも中学生には難度の高い曲であるが, 3年生という発達段階においてはまさに適切な曲であるために本校では長い間3年生の課題曲として定着してきた。しかし, 合唱コンクールの新しい取り組みとして, 今年度は「大地讃頌」に代わって「虹」(作詞・作曲 御徒町凧, 森山直太朗, 編曲 信長貴富)を取り上げることにした。この曲は今年度の「NHK全国音楽コンクール」の中学生の部の課題曲で, オリジナルの合唱曲ではないと思われるもののアレンジの妙もあり思春期の生徒たちには受け入れやすい曲になっている。「大地讃頌」の様々な意味で安定感や重厚なイメージとは対照的に, 「虹」は揺れ動く不確かな心の様を表した歌詞や, 付加音を持つ和音を多用し, あえて安定感のない音使いで微妙な浮遊感を演出したアレンジなど, 森山直太朗の他の曲や歌唱を知る生徒には納得のいく楽曲だと思われる。

(6) 指導にあたって

【教材観】

合唱コンクールの取り組みは, 生徒の合唱技術を高めたり, 音楽的に深める絶好の機会である。また, 友達同士協力し合ったり, クラスとしての絆を強くする生徒指導的な意味でも有意義な行事である。特に3年生は例年最上級生としての自覚を持ち, とても自主的で意欲的な取り組みを見せてくれている。これまでの3年生の課題曲「大地讃頌」は, ソプラノ, アルト, テノール, バスの4つの声部が, まるで四声体のようにホモフォニックに動く場面が多く, 重厚で立体感のある響きやスケールの大きな曲想, 歌詞の内容とがあいまって合唱曲の定番となっている。技術的にも決して易しくはないが, 中学生でも歌いこなすことのできる曲である。

今年は課題曲を変更して「虹」を取り上げることにしたが, この曲は今年度の「NHK全国音楽コンクール」の中学生の部の課題曲で, 本来合唱部の生徒たちがコンクールの場で歌うために作られた

ものである。ただし、オリジナルの合唱曲ではなく、歌詞の内容や曲想は J-pop のようであり、良くも悪くも今風であり、生徒たちにとっては「大地讃頌」に比べると、はるかに身近に感じられるものである。また、混声3部合唱ということもあり、和声的にも微妙な浮遊感を表現し、あえて安定感のない音使いがこの曲の魅力となっている。

【指導観】

この「虹」は、三年生の課題曲としてはじめて取り上げる曲であり、生徒の受け止め方や感じ方も様々と思われる。仕上げていく際には生徒それぞれの感受をある程度まとめ、クラスとしての共通理解を図って方向性を出していかなくてはいけない。自分がどのように感じているか、それを他の人に伝え、さらに他の人の感じ方も受け入れることが必要になってくる。この曲の持つ繊細な味わいを感じ取らせて、それぞれの生徒の感受性を上手く取り上げてクラス全員の共通理解を図りながら仕上げていきたい。



(7) 指導計画及び評価計画（総時数10時限）

		評価計画	
第一次	課題曲 「虹」	5時間	①②③
第二次	各クラス自由曲	5時間	①②③

(8) 評価基準

	①音楽への感心・意欲・態度	②音楽的な感受や表現の工夫	③表現の技能
評価規準	歌詞の内容、声部の役割、構成要素の働き、表現要素による曲想の変化に関心を持ち、意欲的に表現活動をしている。	歌詞の内容、声部の役割、構成要素の働き、表現要素による曲想の変化を感じ取り、自分なりのイメージを持って合唱表現を工夫している。	歌詞の内容、声部の役割、構成要素の働き、表現要素による曲想の変化に合った、自分なりのイメージを持って合唱表現をしている。
評価方法	観察 (授業中の取り組みの様子や発言の内容) ワークシート	観察 ワークシート (題材の音楽的な内容に関するものなど) 実技テスト	観察 実技テスト (曲の各部を曲想を考えて歌っているか)

判断基準	<p>A 自分から進んで声を出し、全体を盛り上げるように意欲的に取り組んでいる。 全体の響きの中に自分の声を上手く溶け込ませることに意欲的である。</p> <p>B 自分から進んで声を出し、全体を盛り上げるように意欲的に取り組んでいる。 全体の響きの中に自分の声を上手く溶け込ませることに意欲的である。 音楽的な表情付けをして歌うことに意欲的である。</p>	<p>A 曲の聴取で各部分を深く聴き取ることができ、自分なりのイメージを持って文字表現できる。 どのように歌えばよいかアイデアを持って歌う工夫をすることができる。</p> <p>B 曲の聴取で各部分を適切に聴き取り、自分の言葉で文字表現できる。 自分なりの考えで歌う工夫をすることができる。</p>	<p>A 曲の各部分を自分のイメージや表現のアイデアを持って情感豊かに歌うことができる。</p> <p>B 曲の各部分を適切な表現方法で歌うことができる。</p>
------	---	---	---

3. 実践例

新学期が始まって間もない、4月18日に校内研究授業として3年生のはじめての授業を下記のように行った。3年生にとっては、はじめて聴く曲であり「大地讃頌」の方がよいという声も聞かれた。

(1) 題材名 3年課題曲「虹」 作詞・作曲 御徒町凧, 森山直太朗, 編曲 信長貴富

(2) ねらい

・課題曲について歌詞の内容、声部の役割、構成要素の働き、表現要素による曲想の変化を感じ取り、自分なりのイメージを持てるようにする。

(3) 評価の観点及び基準

① 感心・意欲・態度

歌詞の内容、声部の役割、構成要素の働き、表現要素による曲想の変化に関心を持ち、意欲的に表現活動をしている。

② 音楽的な感受と表現の工夫

歌詞の内容、声部の役割、構成要素の働き、表現要素による曲想の変化を感じ取り、自分なりのイメージを持って合唱表現を工夫している。

(4) 本校の研究主題とのかかわりについて

今年度の本校の研究は「他者とのかかわる」、「ともに学ぶ」や「他者理解」「自己表現力」育成に関する学習についてであるが、音楽科の特に合唱の授業では練習や訓練という要素が時間的に多くの割合を占めることになるが、曲に対する理解や感受がなければ音楽的に深めることはできない。しかも、理解や感受は個人差が大きく、また、時間の経過とともに個人の中で変化していくものでもある。さらに、視点を変えると理解や感受は曲に対する評価であり、新しい曲の場合一定の安定した評価が定着するにはある程度時間がかかるものである。3年生は昨年までの「大地讃頌」を過去2年間、8クラスの合唱を聴いてきたので、ある程度固まった理解や感受を持っていると考えられるが、今年の課題曲「虹」は生徒にとって未知の曲であり、生徒同士の理解や感受の交流を通して「他者とのかかわる」「ともに学ぶ」や「他者理解」「自己表現力」の育成を図りたい。

(5) 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援及び留意点 評価基準及び方法☆	時間
1. 課題曲が「虹」に変わったことを知らせ、ワークシートと楽譜を配布し、作詞、作曲、編曲者を紹介し、歌詞を声を出して朗読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に期待感を持たせるように、新しい課題曲を紹介する。 ・歌詞について生徒それぞれの感想もあると思われるが、深入りせず朗読するだけとする。 	5
2. 課題曲の範唱CDを鑑賞し、全体的な印象を感想として短く書き留める。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての曲を1回聴いただけではしっかりと感想を持つことは難しいので、まわりと私語をすることが予想されるが、この段階では感想を共有するのではなく、とにかく自分の第一印象を記録しておく。 <p style="text-align: right;">☆①観察</p>	7
3. 比較するため、昨年までの課題曲「大地讃頌」を途中まで聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらがよい、という声が上がると思われるが、今は取り上げない。 ・表現する内容や音の扱いなど書法の違いを指摘し、種類の異なった音楽であることに気づかせる。 	3
4. 感想の書き方を学習する。 音楽を構成する具体的な要素が様々に働いて、音楽的な内容が表現されることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・①音楽を形作る諸要素、②音楽が表現する内容については、具体的な要素や音楽的な内容の例は、なるべく生徒に考えさせ、生徒の言葉で出させるようにする。 ・既習曲などを例に挙げ、わかりやすく説明する。 	10
5. もう一度「虹」を鑑賞し、4.で学習した書き方で感想を書く。(必要に応じて何回か聴く)	<ul style="list-style-type: none"> ・「①なので②感じがした」というワークシートの書き方が制約が多く書きにくいと感じる場合は、具体的な要素をふまえて全体的な感想を書いてもよい。 ・聴き終わってからでなく、聴きながらどんどん感想を書くようにする。 <p style="text-align: right;">☆②ワークシート</p>	10
6. 4人ずつのグループになり、それぞれの感想を発表しあう。他の人の感想で共感できるものは自分のワークシートに書いておく。さらに、各グループで発表された感想の中から特に共感できる感想を話し合いで2つ選び、グループとしての感想として全体に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特に順番などは決めないが、自由に感想を発表できるように、また、他の人の感想をしっかりと聴くことのできるようにする。 <p style="text-align: right;">☆②ワークシート</p>	15

【本時に使用したワークシート】

合唱コンクールの課題曲について

題名		編曲	
作詞作曲			

課題曲の全体的な第一印象

① 音楽を形作る具体的な要素

② 音楽が表現する内容

課題曲を聴いた感想 ① なので ② 感じがした

自分の感想

他の人の感想

3年 組 番 氏名 _____

生徒の感想

課題曲の全体的な第一印象

全体的に流れるような音楽で、ソロの部分があって驚いた。
 大地讃頌は偉大な感じがするが虹はさわやかな感じがした。
 明るくて繊細な感じ。色彩が豊かで「虹」という題名がピッタリ。
 曲全体がきれいで、盛り上がる曲。
 ピアノと歌のスケールが大きい。
 さわやかな感じで青春って感じ。
 流れるような優しい響きと、サビの力強さが混ざっていてよかった。
 心にしみるような優しい感じがした。
 胸にぐっと来るような懐かしい感じ。
 全体に切ない感じがした。
 歌詞や曲が内容的に広い空間を表しているようだった。
 大地讃頌と比べて身近な感じがする。
 優しい感じでありながら、力強さも感じられる。
 流れるような曲で風のような優しい感じ。
 哀愁感が漂う中に明るいサビもありバランスのとれた曲。
 心の奥に深く響き渡るようなきれいに澄んだ感じ。
 明るいけど希望に満ちた明るさではなく、落ち着いた曲調。

自 分 の 感 想	<p>歌い出しが静かに始まり後半盛り上がるのでスケールの大きな感じがする。 速度や強弱の変化が大きいので内容が豊かな感じがした。 滑らかでゆったりとした旋律でありながら強弱があるため迫力を感じた。 いろいろな音色があるためきれいで豊かな感じがした。 男子→アルト→ソプラノと順番に入るところが印象的であった。 ピアノの流れるような伴奏が雲が流れていくような感じがした。 最初の方はきれいなハーモニーを丁寧に歌っていたので優しく柔らかな感じがした。 サビの盛り上がる部分は強弱がはっきりしてしかも伸びやかなので壮大な感じがした。 サビからが大きくなり、リズムも変わるので明るく元気な感じがした。 各パートがずれたり、和音や強弱が変わっているなど表現が多彩でスケールが大きい。 歌詞に比喩的な表現が多く曲調もゆっくりなので、スケールの大きな穏やかな感じがした。 大地讃頌は和音で動くことが多いので力強い感じがしたが、虹は細かい動きが多く繊細な感じ。 和音がきれいなので瑞々しい感じがした。</p>
-----------------------	--

(6) 参観者の感想

研究部からの記入用紙により、以下のような意見が出された。

☆発達の方向性（「個性化」と「社会化」）の視点から

※「他者との関係性」を重んじ、他者との調和的共存や社会への適応をめざす方向性について、観察できた（感じた）ことをお書きください。（昨年までの「マクロ的視点」に通じます。）

- ・クラス替えがあつてまだ日が浅いので、お互いに様子を見合っているように感じられた。
- ・クラスの曲のイメージを決めていく次の過程で、きっと他者との調和的共存が見られると感じる。
- ・友達の感想をよく聞き取りながら、自分の意見を少しずつまとめ上げていくことができていた。また、グループごとの代表意見の発表者決定についてもスムーズに行われていた。

※「他とは異なる個」としての自己を活かそうとする方向性について、観察できた（感じた）ことをお書きください。（昨年までの「ミクロ的視点」に通じます。）

- ・プリントには各自の感じた思いが記述されており、今後が楽しみである。

☆コミュニケーション力（「他者理解力」と「自己表現力」）の視点で、生徒の様子から授業改善まで、お気づきのことをお書きください。

【他者理解力】

ア. 正確な理解力…他者のことばの論理的な意味を分析する力

- ・N男の「wideな感覚」という発言を、他の3人は戸惑いながら聞いていた。感覚を（論理的に）相手に伝える、または、理解するのは鍛錬がいると感じた。
- ・プリントに書かれた感想について、時間を取り詳しく述べさせる（グループ内で）活動があれば、さらに他者の気持ちを理解でき、自分の表現力も深まっていくと考える。

イ. 深い理解力…他者の気持ち（心情）を推し量る力

- ・グループでの発表の間、うなずいて聞ける生徒が数人見られた。自分たちの意見と共感できる部分があったようだ。
- ・心情を推し量ることはとても難しいことですが、話し合いをつき進めていく中で、あるいは曲を何

回も聴くことで……、何回も自分の気持ちを表現しあうとよい。

【自己表現力】

ア. 教師に向けて行なう表現

- ・今回は初めての時間であるのか、とても静かで落ち着き（3年生だからか、参観授業だからか）がある反面、生徒がもっと教師に問いかける場面があって欲しい。

イ. 子供たちが相互に向けて行なう表現

- ・照れながらも原稿があったので、自分の意見を言うことができた。
- ・グループ内で盛んな主張、曲のこんなところが素敵だとか、こう思っているのかなど。

☆その他、「共に学ぶ」というテーマのもと、授業全般についてお気づきの点をお書きください。

- ・次の授業が「共に学ぶ」山場だと思う。様々な感想を各人がどのように受け止め（理解し）、どのようなクラスなりの意見にまとめていくのか。意見の言い放しではなく、よい意味での創発があったらいいなあと思う。
- ・最初の授業ということもあったのではないかと思います。お互いに関わりあいながら学ぶ姿が見えてくることを期待します。

4. 考察

この授業では、はじめての教材である「虹」を各人が聴き取り、その感受を感想としてグループ内で出し合い、それを全体に発表することにより様々な感受のあることを知り、曲に対する理解や感受を深めクラス内で共通理解しようというものであった。しかし、実際の授業では時間が足りずグループ内発表だけで終わってしまった。次時の授業の前半を使い全体での発表を行い共通理解を図った。生徒各個人のこの曲に対する感受が、最初に聴いた自分の第1印象と、他の何人もの感受を聞くことによってどのように変容したかを検証することはとても難しい。この授業のあと合唱コンクールの直前に仕上げとして話し合う時間を持ったが、実際には仕上げのための歌う時間を確保するため十分なことはできなかった。また、合唱コンクールの後に事後指導として自分たちの合唱と他のクラスの合唱、そして、この授業でも聴いたCDを比較して聴かせた。生徒たちは自分たちがこの曲から受け止めた感受を表現できたかという観点よりも、単に各パートや各部分が上手く歌えているかという聴き方しかできなかった。

芸術作品が時間の経過と共に淘汰されるのと同じように、個人のなかでの、曲に対する感受というものは時間的な経過と共に変化するものである。今回の「虹」について生徒たちの感受がどのように変化していったかは判然としないが、合唱コンクールの取り組みを通して、しかも、生徒たちには新しい曲であったことも幸いしたのか、授業中のパート練習や合唱練習の際に生徒同士が声を掛け合うなど、みんなで作り上げようという姿勢が例年にも増して見られたことは教師としてこの上ない喜びであった。合唱の授業では技術的な困難さなど克服すべき問題もあり、自分たちの感じたものを曲の中に込めて歌うということは容易ではないが、これからも生徒主体で共に高めあうことのできる学習活動を目指して研究を深めたいと願っている。